

① 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
102-128	高等学校	数学	数学 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	数 I 710	新編 数学 I		

1. 編修の基本方針

- (1) 学習指導要領の目標の達成を期し、わかりやすい説明や例から始めて、基本的な内容を理解できるように編集しました。
- (2) 教師が、学習目標や指導内容を正しくとらえ、生徒の実態に応じて創意工夫をこらした指導ができるように配慮しました。
- (3) 生徒が、学習内容に興味・関心をもち、自発的・意欲的な学習活動ができるように配慮しました。



2. 対照表

教育基本法 第二条 教育の目標

教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
教科書全体	・生活の事象と数学との関連を理解し、未知の問題にも主体的・協同的に取り組む姿勢、真理を求める態度を身につけられるよう、各章の扉に、社会や生活に関連する事象を数学的にとらえる課題と、その課題を解決しようとする場面を取り上げました。(第1号、第2号、第3号)	p. 9, 49, 71, 117, 153
	・真理を求める態度を養うという観点から、各章の冒頭「ふり返し」に、その章を学習するために必要な既習の内容をまとめました。(第1号)	p. 8, 48, 70, 116, 152
	・目的意識を持って学習に臨めるよう、各節の冒頭に、その節で学習する内容をイメージするための記述を取り上げました。(第2号)	p. 10, 25, 36 等
	・目的意識を持って学習に臨めるよう、例や例題についてはタイトルをつけるなど、提示の仕方を工夫しました。(第2号)	p. 12, 15, 17 等

巻頭	・我が国と郷土を愛するという観点から、前見返しにおいて、日本の風景の写真を掲載し、それに関連する数学Ⅰでの学習内容を記述しました。(第5号)	p. I, 1
	・真理を求める態度を養う、および、自主及び自立の精神を養うという観点から、巻頭には「本書の構成と使い方」を設け、自ら進んで学習する態度をはぐくめるようにしました。(第1号, 第2号)	p. 4～7
第1章 数と式	・生活の事象と数学との関連を理解し、未知の問題にも自他の敬愛と協力を重んじて真理を求める態度を身につけられるよう、選挙における当選確実な票数について章末問題で取り上げました。(第1号, 第2号, 第3号)	p. 47
第2章 集合と命題	・我が国と郷土を愛するという観点から、命題の例示として、富士山に関わる文章を掲載しました。(第5号)	p. 56
	・職業および生活の事象と数学との関連を重視するという観点から、身の回りの規則を、学習した「命題」の視点でとらえる問題を取り上げました。(第2号)	p. 66
第3章 2次関数	・職業および生活との関連を重視するという観点から、フェンスを折り曲げて広場を作るという例題を取り上げました。(第2号)	p. 95
	・社会や生活との関連を重視し、主体的に社会の形成に参画するという観点から、自動車の停止距離についての問題を取り上げました。(第2号, 第3号)	p. 112
	・未知の問題にも自他の敬愛と協力を重んじて真理を求める態度を身につけられるよう、2次関数の最小値に関する問題を段階的に解決していく記述を章末問題で取り上げました。(第1号, 第3号)	p. 115
第4章 図形と計量	・生活との関連を重視するという観点から、三角比を用いた測量の問題を取り上げ、数学を利用して身のまわりの問題を解決できるようにしました。(第2号)	p. 122, 124, 128, 148, 150
	・未知の問題にも自他の敬愛と協力を重んじて真理を求める態度を身につけられるよう、正四面体の体積に関する問題を段階的に解決していく記述を章末問題で取り上げました。(第1号, 第3号)	p. 151
第5章 データの分析	・自然を大切に、環境の保全に寄与するという観点から、日本各地の気象データを題材として取り上げました。(第4号)	p. 154, 155, 167
	・職業および生活の事象と数学との関連を重視するという観点から、試験の偏差値を、学習した「標準偏差」の視点でとらえる問題を取り上げました。(第2号)	p. 165
	・社会や生活との関連を重視し、主体的に社会の形成に参画するという観点から、アイスクリームを計画的に仕入れるために、「データの分析」の内容を用いて解決する問題を、章末問題で取り上げました。(第2号, 第3号)	p. 178-179

課題学習	<ul style="list-style-type: none"> ・数学を利用して身のまわりの問題を解決する場面を取り入れました。また、自ら課題を見つけ解決することを促す記述をおき、自他の敬愛と協力を重んずるという観点から、作業性のある課題をおきました。(第1号, 第2号, 第3号) 	p. 180-187
巻末	<ul style="list-style-type: none"> ・真理を求める態度を養う, および, 自主及び自立の精神を養うという観点から, 巻末には「既習事項のまとめ」を設け, 自ら進んで学習する態度をはぐくめるようにしました。(第1号, 第2号) 	p. 204-206
	<ul style="list-style-type: none"> ・他国を尊重するという観点から, 後見返しにおいて, 各章に関連した数学者を, その年代を示した年表とともに紹介しました。(第5号) 	p. 208, II
3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色		

① 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
102-128	高等学校	数学	数学 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	数 I 710	新編 数学 I		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①構成

- (1) **新しい学習内容に入る前に、既習の内容をふり返ることができるようにしました。**
各章の冒頭に「ふり回り」のページをおき、既習である内容について言葉の意味や重要事項をふり返ることによって、新しい学習内容にスムーズに入っていくことができるようにしました。
- (2) **図式や色刷りを用いて、視覚を通して内容を直観的に理解できるようにしました。**
本文内容については解説の部分に図式や色刷りを効果的に用いて、視覚を通して直観的に内容を理解できるように構成しました。特に、本文内容と、それを補足するための傍注には本文と相互に同色の色アミを掛け、対応関係が明確になるように配慮しました。
また、カラーユニバーサルデザイン(CUD)の観点から、誰にでも見分けられる色使いを心がけ、フォントは識別がしやすい書体(UD 書体)を採用しました。
- (3) **例と問題の対応関係を明確にして、演習を通じて内容が定着するようにしました。**
例や例題に対応する問題は、対応関係が明確になるように配慮し、例や例題を参照しながら問題演習を行うことで、学習した内容を確実に理解・定着できるように構成しました。
節末の「確認問題」では、節での学習内容を確認できるようにし、章末の「章末 A 問題」で、各節の内容の延長にある標準的な問題に取り組むことで、総合的な応用力を養えるようにしました。また、「確認問題」「章末 A 問題」にはそれぞれふり回り先を明示し、解けなかった場合には戻って復習をすることができるようにしました。
- (4) **数学的な見方・考え方を用いて課題を解決したり、ひろげたりする力を身につけられるような問題を取り上げました。**
各章の扉では、身の回りの課題と、それを解決しようとする場面を取り上げることで、各章を学ぶ目的・意義を理解するとともに、数学的な見方・考え方ははぐくめられるように配慮しました。また、その課題が本文内の例題や、後述の「math 探」で解決できるようにしました。
本文内では、その章で学習した内容を、さらにひろげたり深めたりすることができるよう、特集ページ「math 探」を設けました。
章末では、身の回りにある課題や数学の課題から、新たな内容を発見し、それを使って課題を解決できるよう、「章末 B 問題」を設けました。
- (5) **学習の中で I C T を有効に活用できるようにしました。**
コンピュータを有効に活用することで学習内容の理解が深まる場面には、コンピュータ画面を示して解説するとともに、QR コードも有効な場面では掲載し、その様子をみることができるようにしました。さらに、QR コードは学習効果が図れる場面に適宜入れ、自分で動かしたり動画をみたりなどできるようにし、生徒の主体的な学習をサポートできるようにしました。

②内容

中学校からのつながりと「数学Ⅱ」への連絡を考慮して、「数と式」「集合と命題」「2次関数」「図形と計量」「データの分析」の順に配列しました。「課題学習」については、柔軟な取り扱いができるように、巻末に配置しました。

各章および課題学習において留意した点は次の通りです。

第1章 数と式

章扉や「章末B問題」では、日常的な課題について、生徒が数学的な見方・考え方をを用いて、段階的に解決しようとする場面を取り上げ、興味・関心の幅をひろげられるようにしました。章扉の課題については、本文内の例題で解決できるようにしました。

$(ax+b)(cx+d)$ の形への因数分解（たすき掛け）については、実際に因数分解する場面を想定し、いくつかの組み合わせを試した後に見つけられるという形で記述しました。

不等式の性質については、図を使用し、視覚的に理解できるようにしました。

第2章 集合と命題

章扉では、身の回りでよくみる「規則」の意味を、生徒が理解しようとする場面を取り上げました。また、「math探」で、その規則を命題の考え方をを用いて考える問題を取り上げました。

命題とその真偽においては、日常的な文章についても例の中で示し、命題とは何かを理解できるようにしました。

第3章 2次関数

章扉では、「広場の面積を大きくするためのフェンスの設置方法」について、生徒が数学的な見方・考え方をを用いて、段階的に解決しようとする場面を取り上げ、興味・関心の幅をひろげられるようにしました。また、その内容について、本文内の例題で解決できるようにしました。

2次関数のグラフがかけることを目標とし、 $y = ax^2$ のグラフ、 $y = ax^2 + q$ のグラフ、 $y = a(x-p)^2$ のグラフ、 $y = a(x-p)^2 + q$ のグラフを色刷りの表などから理解できるようにしました。また、「math探」では、2次関数の係数が、そのグラフにどのように影響するのかを、グラフ表示ソフトを用いてイメージできるようにしました。

2次関数の最大・最小に関しては、グラフを利用して説明しました。特に定義域が制限されたときには定義域と軸の位置関係に着目するということが理解できるように構成しました。

2次不等式では、2次関数のグラフとx軸との位置関係から解をとらえることを重視しました。

第4章 図形と計量

章扉では、「建物の高さの測定方法」について、中学校で習った内容を踏まえつつ、新しい測定方法がないかを生徒が考えようとする場面を取り上げました。また、その内容について、本文内の例題で解決できるようにしました。

三角比については、正弦・余弦・正接をまとめて導入することで、3つの三角比を関連づけながら取り扱うことができるようにしました。また、それらが測量や図形の計量に応用できることが理解できるように記述しました。

第5章 データの分析

章扉では、日頃よくみる「偏差値」について、生徒がその意味を理解し、さらに疑問をもてるようにしました。また、「math探」で、偏差値と標準偏差の関係を考えさせる問題を取り上げました。

本文内では、生徒が興味を持って取り組むことができるようなデータを例として取り上げるようにしました。

課題学習

身近な題材を取り上げ、問題解決から自主的な探求活動につながるようにしました。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第1章 数と式	(1) ア(ア)(ウ)(エ)／イ(イ)(ウ)(エ)／ 内容の取り扱い(1)	p. 8-47	19
第1節 整式	(1) ア(ウ)／イ(イ)	p. 10-24	8
第2節 実数	(1) ア(ア)／内容の取り扱い(2)	p. 25-35	5
第3節 1次不等式	(1) ア(エ)／イ(ウ)(エ)	p. 36-45	4
第2章 集合と命題	(1) ア(イ)／イ(ア)／ 内容の取り扱い(1)	p. 48-69	10
第1節 集合と命題	(1) ア(イ)／イ(ア)	p. 50-68	9
第3章 2次関数	(3)／内容の取り扱い(1)	p. 70-115	23
第1節 関数とグラフ	(3) ア(ア)／イ(ア)	p. 72-91	10
第2節 2次関数の最大・最小	(3) ア(イ)／イ(イ)	p. 92-96	3
第3節 2次関数と 方程式・不等式	(3) ア(ウ)／ [課題学習]／内容の取り扱い(4)	p. 97-113	8
第4章 図形と計量	(2)／内容の取り扱い(1)	p. 116-151	21
第1節 鋭角の三角比	(2) ア(ア)／イ(イ)	p. 118-128	6
第2節 鈍角の三角比	(2) ア(イ)／内容の取り扱い(3)	p. 129-138	6
第3節 図形の計量	(2) ア(ウ)／イ(ア)(イ)	p. 139-149	7
第5章 データの分析	(4)／内容の取り扱い(1)	p. 152-179	13
第1節 データの整理と分析	(4) ア(ア)／イ(ア)	p. 154-166	6
第2節 データの相関	(4) ア(ア)(イ)／イ(ア)(イ)	p. 167-172	3
第3節 統計的な見方	(4) ア(イ)(ウ)／イ(イ)(ウ)	p. 173-176	2
課題学習	[課題学習]／内容の取り扱い(4)	p. 180-187	4
		計	90

① 編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
102-128	高等学校	数学	数学 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	数 I 710	新編 数学 I		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容 や内容の取扱いに示す事項	ページ数
p. 104	放物線と直線との共有点	1	(3) ア(ウ) 二次方程式・二次不等式に関連して、放物線と一般の直線の共有点を求めることを扱います。	1
合 計				1

(「類型」欄の分類について)

- 1 … 学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2 … 学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容

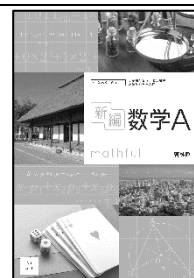
① 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
102-159	高等学校	数学	数学A	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	数A710	新編 数学A		

1. 編修の基本方針

- (1) 学習指導要領の目標の達成を期し、わかりやすい説明や例から始めて、基本的な内容を理解できるように編集しました。
- (2) 教師が、学習目標や指導内容を正しくとらえ、生徒の実態に応じて創意工夫をこらした指導ができるように配慮しました。
- (3) 生徒が、学習内容に興味・関心をもち、自発的・意欲的な学習活動ができるように配慮しました。



2. 対照表

教育基本法 第二条 教育の目標

教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
教科書全体	・生活の事象と数学との関連を理解し、未知の問題にも主体的・協同的に取り組む姿勢、真理を求める態度を身につけられるよう、各章の扉に、社会や生活に関連する事象を数学的にとらえる課題と、その課題を解決しようとする場面を取り上げました。(第1号、第2号、第3号)	p. 15, 67, 111
	・真理を求める態度を養うという観点から、各章の冒頭「ふり返し」に、その章を学習するために必要な既習の内容をまとめました。(第1号)	p. 14, 66, 110
	・目的意識を持って学習に臨めるよう、各節の冒頭に、その節で学習する内容をイメージするための記述を取り上げました。(第2号)	p. 16, 25, 38 等
	・目的意識を持って学習に臨めるよう、例や例題についてはタイトルをつけるなど、提示の仕方を工夫しました。(第2号)	p. 17, 18, 19 等

巻頭	<ul style="list-style-type: none"> 我が国と郷土を愛するという観点から、前見返しにおいて、日本の風景の写真を掲載し、それに関連する数学Aでの学習内容を記述しました。(第5号) 	p. I, 1
	<ul style="list-style-type: none"> 真理を求める態度を養う、および、自主及び自立の精神を養うという観点から、巻頭には「本書の構成と使い方」を設け、自ら進んで学習する態度をはぐくめるようにしました。(第1号、第2号) 	p. 4-7
第1章 場合の数と確率	<ul style="list-style-type: none"> 生活の事象と数学との関連を理解し、未知の問題にも自他の敬愛と協力を重んじて真理を求める態度を身につけられるよう、日常に関わる条件付き確率の問題を章末問題で取り上げました。(第1号、第2号、第3号) 	p. 65
	<ul style="list-style-type: none"> 男女の平等という観点から、本文や演習問題においても男女のバランスを考慮しました。(第3号) 	p. 22, 23, 32, 37 等
第2章 図形の性質	<ul style="list-style-type: none"> 生活の事象と数学との関連を理解し、未知の問題にも自他の敬愛と協力を重んじて真理を求める態度を身につけられるよう、サッカーにおけるシュートの位置に関する問題を章末問題で取り上げました。(第1号、第2号、第3号) 	p. 107
	<ul style="list-style-type: none"> 職業および生活との関連を重視し、主体的に社会の形成に参画するという観点から、消防署の担当区域を分けるという問題を取り上げました。(第2号、第3号) 	p. 108
	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、定理を単に紹介するのではなく、その証明を巻末に掲載しました。(第1号) 	p. 142-143
第3章 数学と人間の活動	<ul style="list-style-type: none"> 真理を求める態度を養うという観点から、二進法に関する問題を段階的に解決していく記述を取り上げました。(第1号) 	p. 127
	<ul style="list-style-type: none"> 伝統と文化を尊重するという観点から、伊能忠敬が完成させた「大日本沿海輿地全図」を話題として取り上げました。(第5号) 	p. 133
巻末	<ul style="list-style-type: none"> 真理を求める態度を養う、および、自主及び自立の精神を養うという観点から、巻末には「既習事項のまとめ」を設け、自ら進んで学習する態度をはぐくめるようにしました。(第1号、第2号) 	p. 149-150
	<ul style="list-style-type: none"> 他国を尊重するという観点から、後見返しにおいて、各章に関連した数学者を、その年代を示した年表とともに紹介しました。(第5号) 	p. 152, II
3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色		

① 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
102-159	高等学校	数学	数学A	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	数A710	新編 数学A		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①構成

- (1) **新しい学習内容に入る前に、既習の内容をふり返ることができるようにしました。**
各章の冒頭に「ふり返り」のページをおき、既習である内容について言葉の意味や重要事項をふり返ることによって、新しい学習内容にスムーズに入っていくことができるようにしました。
- (2) **図式や色刷りを用いて、視覚を通して内容を直観的に理解できるようにしました。**
本文内容については解説の部分に図式や色刷りを効果的に用いて、視覚を通して直観的に内容を理解できるように構成しました。特に、本文内容と、それを補足するための傍注には本文と相互に同色の色アミを掛け、対応関係が明確になるように配慮しました。
また、カラーユニバーサルデザイン(CUD)の観点から、誰にでも見分けられる色使いを心がけ、フォントは識別がしやすい書体(UD 書体)を採用しました。
- (3) **例と問題の対応関係を明確にして、演習を通じて内容が定着するようにしました。**
例や例題に対応する問題は、対応関係が明確になるように配慮し、例や例題を参照しながら問題演習を行うことで、学習した内容を確実に理解・定着できるように構成しました。
節末の「確認問題」では、節での学習内容を確認できるようにし、章末の「章末A問題」で、各節の内容の延長にある標準的な問題に取り組むことで、総合的な応用力を養えるようにしました。また、「確認問題」「章末A問題」にはそれぞれふり返り先を明示し、解けなかった場合には戻って復習をすることができるようにしました。
- (4) **数学的な見方・考え方を用いて課題を解決したり、ひろげたりする力を身につけられるような問題を取り上げました。**
各章の扉では、身の回りの課題と、それを解決しようとする場面を取り上げることで、各章を学ぶ目的・意義を理解するとともに、数学的な見方・考え方はぐくめられるように配慮しました。また、その課題が本文内の例題や、後述の「math 探」で解決できるようにしました。
本文内では、その章で学習した内容を、さらにひろげたり深めたりすることができるよう、特集ページ「math 探」を設けました。
章末では、身の回りにある課題や数学の課題から、新たな内容を発見し、それを使って課題を解決できるよう、「章末B問題」を設けました。
- (5) **学習の中でICTを有効に活用できるようにしました。**
コンピュータを有効に活用することで学習内容の理解が深まる場面には、コンピュータ画面を示して解説するとともに、QRコードも有効な場面では掲載し、その様子をみることができるようになりました。さらに、QRコードは学習効果が図れる場面に適宜入れ、自分で動かしたり動画をみたりなどできるようにし、生徒の主体的な学習をサポートできるようにしました。

②内容

「数学Ⅰ」と並行して履修する場合を考慮し、序章として「数学Ⅰ」の「集合」と同一の内容を参考のために掲載しました。その後は「図形の性質」「数学と人間の活動」の順に配列しました。

各章および課題学習において留意した点は次の通りです。

第1章 場合の数と確率

章扉では期待値に関する内容について、生徒が数学的な見方・考え方を用いて、段階的に解決しようとする場面を取り上げ、興味・関心の幅をひろげられるようにしました。また、その内容について、本文内の例題で解決できるようにしました。

場合の数では、数え上げの基本として樹形図を例とともに示すことでその有用性を認識させ、そこから順列や組合せの考え方につなげていく構成としました。

確率では、基本的な概念について説明した後で具体例を提示するように記述を整理しました。

第2章 図形の性質

章扉では、「ある地域を3つの消防署の担当区域に分ける方法」について、生徒がその意味を理解し、さらに疑問をもてるようにしました。また、その内容について、「math探」で段階的に解決できる問題を取り上げました。

三角形や円の性質では、中学校までに学習した内容を確認しつつ、そこから新たな図形の性質を見出したり、導き出したりできるような構成にしました。特に、三角形の性質では、本文中で証明まで示さない定理についても巻末に証明を掲載するようにしました。

第3章 数学と人間の活動

各題材について、何をするのか、何が知りたいのかなどがわかるよう、導入などに「Question」をできるだけ入れ、自主的な探究活動にもつながるようにしました。

ユークリッドの互除法や n 進法では、理解を深められるように、図を用いて視覚的にわかるようにしました。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第1章 場合の数と確率	(2)	p. 14-65	30
第1節 場合の数	(2) ア(ア)／イ(ア)	p. 16-24	7
第2節 順列・組合せ	(2) ア(イ)／イ(ア)	p. 25-37	7
第3節 確率とその基本性質	(2) ア(ウ)／イ(イ)(ウ) ／内容の取り扱い(2)	p. 38-52	8
第4節 いろいろな確率	(2) ア(エ)(オ)／イ(イ)(ウ)	p. 53-63	6
第2章 図形の性質	(1)	p. 66-109	22
第1節 三角形の性質	(1) ア(ア)／イ(ア)(イ)	p. 68-85	9
第2節 円の性質	(1) ア(イ)／イ(ア)	p. 86-98	7
第3節 空間図形	(1) ア(ウ)／イ(ア)	p. 99-106	4
第3章 数学と人間の活動	(3)／内容の取り扱い(3)(4)	p. 110-141	20
		計	72

① 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
102-144	高等学校	数学	数学Ⅱ	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	数Ⅱ707	新編 数学Ⅱ		

1. 編修の基本方針

- (1) 学習指導要領の目標の達成を期し、わかりやすい説明や例から始めて、基本的な内容を理解できるように編集しました。
- (2) 教師が、学習目標や指導内容を正しくとらえ、生徒の実態に応じて創意工夫をこらした指導ができるように配慮しました。
- (3) 生徒が、学習内容に興味・関心をもち、自発的・意欲的な学習活動ができるように配慮しました。



2. 対照表

教育基本法 第二条 教育の目標

教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
教科書全体	・生活の事象と数学との関連を理解し、未知の問題にも主体的・協同的に取り組む姿勢、真理を求める態度を身につけられるよう、各章の扉に、社会や生活に関連する事象などを数学的にとらえる課題と、その課題を解決しようとする場面を取り上げました。(第1号、第2号、第3号)	p. 7, 35, 59, 105, 141, 171
	・真理を求める態度を養うという観点から、各章の冒頭「ふり返り」に、その章を学習するために必要な既習の内容をまとめました。(第1号)	p. 6, 34, 58, 104, 140, 170
	・目的意識を持って学習に臨めるよう、各節の冒頭に、その節で学習する内容をイメージするための記述を取り上げました。(第2号)	p. 8, 21, 36 等
	・目的意識を持って学習に臨めるよう、例や例題についてはタイトルをつけるなど、提示の仕方を工夫しました。(第2号)	p. 8, 9, 12 等

巻頭	・我が国と郷土を愛するという観点から、前見返しにおいて、日本の風景の写真を掲載し、それに関連する数学Ⅱでの学習内容を記述しました。(第5号)	p. I, 1
	・真理を求める態度を養う、および、自主及び自律の精神を養うという観点から、巻頭には「本書の構成と使い方」を設け、自ら進んで学習する態度をはぐくめるようにしました。(第1号、第2号)	p. 4, 5
第1章 式と証明	・真理を求める態度を養う、および、自主及び自律の精神を養うという観点から、二項定理の学習の導入に「パスカルの三角形」を取り上げ、4次以上の式の展開に自ら進んで学習する態度をはぐくめるようにしました。(第1号、第2号)	p. 10
	・職業および生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うという観点から、コラムに相乗平均と売上との関係に関する話題を入れました。(第2号)	p. 30
第2章 複素数と方程式	・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、節の導入として、2次方程式に関連した既習事項を確認できる話題を取り上げました。(第1号)	p. 36
	・職業および生活との関連を重視するという観点から、箱の縦・横・高さとの関係を3次方程式で考えるという例題を取り上げました。(第2号)	p. 54
第3章 図形と方程式	・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、図形の性質の証明に座標を用いる方法を取り上げました。(第1号)	p. 65
	・職業および生活の事象と数学との関連を重視し、未知の問題にも自他の敬愛と協力を重んじて真理を求める態度を身につけられるよう、配送料の設定を考えるという問題を取り上げました。(第1号、第2号、第3号)	p. 100-101
	・生活との関連を重視し、未知の問題にも自他の敬愛と協力を重んじて真理を求める態度を身につけられるよう、線形計画法に関連した問題を段階的に解決していく記述を章末問題で取り上げました。(第1号、第2号、第3号)	p. 103
第4章 三角関数	・三角関数の導入として、観覧車を一例として取り上げ、生活との関連を重視するとともに、他の例を探そうという自主及び自律の精神を養うようにしました。(第2号)	p. 106
	・社会や生活との関連を重視し、主体的に社会の形成に参画するという観点から、観覧車のゴンドラが最下点から回転した角度と、そのときの最下点からの高さの関係を三角関数で考えるという問題を取り上げました。(第2号、第3号)	p. 137

第5章 指数関数と 対数関数	・積を和に変換して計算する方法の例として、計算尺を取り上げ、幅広い知識を身につけるとともに、伝統を尊重する意識をはぐくむようにしました。(第1号、第5号)	p. 166
	・生活の事象と数学との関連を重視するという観点から、身の回りの建築物や山、地球一周の距離などと紙の厚みについて、指数関数や対数関数の視点でとらえる問題を取り上げました。(第2号)	p. 167
	・生活との関連を重視し、未知の問題にも自他の敬愛と協力を重んじて真理を求める態度を身につけられるよう、複利法に関連した問題を段階的に解決していく記述を章末問題で取り上げました。(第1号、第2号、第3号)	p. 169
第6章 微分と積分	・真理を求める態度を養い、生活との関連を重視するという観点から、斜面を転がる球の速度と微分の話題や、ジェットコースターの運動と微分の話題を取り上げました。(第1号、第2号)	p. 172, 184
	・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、節の導入として、前節までに学習した既習事項を確認できる話題を取り上げました。(第1号)	p. 196
課題学習	・数学を利用して身のまわりの問題を解決する場面を取り入れました。また、自ら課題を見つけ解決することを促す記述をおき、自他の敬愛と協力を重んずるという観点から、作業性のある課題をおきました。(第1号、第2号、第3号)	p. 212-218
巻末	・真理を求める態度を養う、および、自主及び自律の精神を養うという観点から、巻末には「既習事項のまとめ」を設け、自ら進んで学習する態度をはぐくめるようにしました。(第1号、第2号)	p. 237-238
	・他国を尊重するという観点から、後見返しにおいて、各章に関連した数学者を、その年代を示した年表とともに紹介しました。(第5号)	p. 240, II
3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色		

① 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
102-144	高等学校	数学	数学Ⅱ	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	数Ⅱ707	新編 数学Ⅱ		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①構成

- (1) **新しい学習内容に入る前に、既習の内容をふり返ることができるようにしました。**
各章の冒頭に「ふり返り」のページをおき、既習である内容について言葉の意味や重要事項をふり返ることによって、新しい学習内容にスムーズに入っていくことができるようにしました。
- (2) **図式や色刷りを用いて、視覚を通して内容を直観的に理解できるようにしました。**
本文内容については解説の部分に図式や色刷りを効果的に用いて、視覚を通して直観的に内容を理解できるように構成しました。特に、本文内容と、それを補足するための傍注には本文と相互に同色の色アミを掛け、対応関係が明確になるように配慮しました。
また、カラーユニバーサルデザイン(CUD)の観点から、誰にでも見分けられる色使いを心がけ、フォントは識別がしやすい書体(UD 書体)を採用しました。
- (3) **例と問題の対応関係を明確にして、演習を通じて内容が定着するようにしました。**
例や例題に対応する問題は、対応関係が明確になるように配慮し、例や例題を参照しながら問題演習を行うことで、学習した内容を確実に理解・定着できるように構成しました。
節末の「確認問題」では、節での学習内容を確認できるようにし、章末の「章末A問題」で、各節の内容の延長にある標準的な問題に取り組むことで、総合的な応用力を養えるようにしました。また、「確認問題」「章末A問題」にはそれぞれふり返り先を明示し、解けなかった場合には戻って復習をすることができるようにしました。
- (4) **数学的な見方・考え方を用いて課題を解決したり、ひろげたりする力を身につけられるような問題を取り上げました。**
各章の扉では、身の回りの課題と、それを解決しようとする場面を取り上げることで、各章を学ぶ目的・意義を理解するとともに、数学的な見方・考え方ははぐくめられるように配慮しました。また、その課題が本文内の例題や、後述の「math 探」で解決できるようにしました。
本文内では、その章で学習した内容を、さらにひろげたり深めたりすることができるよう、特集ページ「math 探」を設けました。
章末では、身の回りにある課題や数学の課題から、新たな内容を発見し、それを使って課題を解決できるよう、「章末B問題」を設けました。
- (5) **学習の中でICTを有効に活用できるようにしました。**
コンピュータを有効に活用することで学習内容の理解が深まる場面には、コンピュータ画面を示して解説するとともに、QRコードも有効な場面では掲載し、その様子をみることができるようになりました。さらに、QRコードは学習効果が図れる場面に適宜入れ、自分で動かしたり動画をみたりなどできるようにし、生徒の主体的な学習をサポートできるようにしました。

②内容

「数学Ⅰ」からのつながりと「数学Ⅲ」への接続を考慮して、「式と証明」「複素数と方程式」「図形と方程式」「三角関数」「指数関数と対数関数」「微分と積分」の順に配列し、この6つの章で構成しました。各章において留意した点は次の通りです。

第1章 式と証明

整式の除法では、数の除法と関連付けて理解できるように、本文と図式化の色使いや配置を工夫しました。

平方の大小関係では、既習事項である2次関数のグラフを入れて、視覚的に理解できるようにするとともに、本文と図との色使いをあわせるようにしました。

コラムでは、売上の伸びと相乗平均に関する話題を取り上げ、相乗平均がどのように役立っているのかわかるようにしました。

第2章 複素数と方程式

章扉では、箱の容積について、生徒がその意味を理解し、さらに疑問が持てるようにしました。また、その内容について、本文内の例題で解決できるようにしました。

複素数の分類では、数の拡張を感じながら明確に理解できるように、図を掲載しました。

剰余の定理では、第1章で学習した「整式の除法」の色使いをあわせることで、学習の流れを意識しながら内容が理解できるようにしました。

第3章 図形と方程式

章扉では、配送料が店からの距離に比例している2つの宅配専門店について、「配送料について、店Bの方が安い地域はどこか」という話題を取り上げ、生徒の興味・関心の幅をひろげられるようにしました。また、その内容について、「math探」で解決できるようにしました。

平面上の点の座標では、「math探」で座標を利用した図形の性質の証明を取り扱い、座標の有用性を理解できるようにしました。

円と直線の位置関係では、方程式を連立して得られる2次方程式の判別式を調べる方法と、円の中心から直線までの距離を調べる方法を取り上げ、多面的な見方ができるようにしました。

連立不等式の表す領域では、それぞれの不等式が表す領域を理解した上で、その共通部分が求める領域であることを意識できるように、複数のグラフを掲載しました。

第4章 三角関数

章扉では、観覧車のゴンドラに関する疑問を取り上げ、生徒の興味・関心の幅をひろげられるようにしました。また、その内容について、「math探」で解決できるようにしました。

三角関数のグラフでは、 $y=\sin\theta$ のグラフをもとにいろいろな三角関数のグラフが理解できるように、周期や平行移動が理解しやすい色使いにしました。

三角関数の加法定理では、弧度法ではなく、度数法を用いた例を取り上げ、加法定理の有用性が感じられるようにしました。また、半角の公式と2倍角の公式との関係性を色使いで表現することで、複数の内容を関連して理解できるようにしました。

第5章 指数関数と対数関数

章扉では、「紙を何回折ると、その厚みが富士山を超えるか」という疑問を取り上げ、生徒が数学的な見方で解決しようとする様子を取り上げました。また、その内容について、「math探」で解決できるようにしました。

指数と指数関数では、指数を整数、有理数へと拡張し、段階をおって指数法則が成り立つことを確認できるようにしました。

対数と対数関数の導入では、指数から対数に、対数から指数にという両方向からの関係の例を示し、対数というものが指数を通して理解できるような展開にしました。

第6章 微分と積分

章扉では、箱の設計方法について取り上げ、生徒がその意味を理解し、さらに疑問が持てるようにしました。また、その内容について、本文内の例題で解決できるようにしました。

導関数の応用では、3次関数のグラフの対称性をコラムで取り上げ、実際のグラフをかくときに役立つようにしました。

面積と定積分では、面積の変化量を視覚的に理解できる図を補助的に扱いました。

課題学習

身近な題材を取り上げ、問題解決から自主的な探究活動につながるようにしました。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第1章 式と証明	(1) ア(ア)(イ)／イ(ア)(イ)	p. 6-33	17
第1節 整式の乗法・除法と分数式	(1) ア(ア)(イ)／イ(ア)	p. 8-20	8
第2節 等式・不等式の証明	(1) ア(ア)(イ)／イ(イ)	p. 21-31	7
第2章 複素数と方程式	(1) ア(ウ)(エ)(オ)／イ(ウ)	p. 34-57	13
第1節 複素数と2次方程式	(1) ア(ウ)(エ)	p. 36-48	7
第2節 因数定理と高次方程式	(1) ア(オ)／イ(ウ)	p. 49-56	5
第3章 図形と方程式	(2)	p. 58-103	27
第1節 点と直線	(2) ア(ア)(イ)／イ(ア)	p. 60-76	10
第2節 円	(2) ア(イ)／イ(ア)	p. 77-88	7
第3節 軌跡と領域	(2) ア(ウ)(エ)／イ(ア)(イ)／ [課題学習]／[内容の取扱い](2)	p. 89-101	7
第4章 三角関数	(4)	p. 104-139	19
第1節 一般角と三角関数	(4) ア(ア)(イ)(ウ)／イ(イ)	p. 106-124	10
第2節 三角関数の加法定理	(4) ア(エ)／イ(ア)(ウ)／ [課題学習]／[内容の取扱い](2)	p. 125-137	7
第5章 指数関数と対数関数	(3)	p. 140-169	16
第1節 指数と指数関数	(3) ア(ア)(イ)／イ(イ)	p. 142-153	7
第2節 対数と対数関数	(3) ア(ウ)(エ)／イ(ア)(イ)(ウ)／ [課題学習]／[内容の取扱い](2)	p. 154-167	7
第6章 微分と積分	(5)／[内容の取扱い](1)	p. 170-211	24
第1節 微分係数と導関数	(5) ア(ア)／[内容の取扱い](1)	p. 172-183	7
第2節 導関数の応用	(5) ア(イ)／イ(ア)(イ)	p. 184-195	7
第3節 積分	(5) ア(ウ)／イ(ウ)／ [内容の取扱い](1)	p. 196-209	8
課題学習	[課題学習]／[内容の取扱い](2)	p. 212-218	4
		計	120

① 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
103-149	高等学校	数学	数学 B	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	数 B708	新編数学 B		

1. 編修の基本方針

- (1) 学習指導要領の目標の達成を期し、わかりやすい説明や例から始めて、基本的な内容を理解できるように編集しました。
- (2) 教師が、学習目標や指導内容を正しくとらえ、生徒の実態に応じて創意工夫をこらした指導ができるように配慮しました。
- (3) 生徒が、学習内容に興味・関心をもち、自発的・意欲的な学習活動ができるように配慮しました。



2. 対照表

教育基本法 第二条 教育の目標

教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
教科書全体	・生活の事象と数学との関連を理解し、未知の問題にも主体的・協同的に取り組む姿勢、真理を求める態度を身につけられるよう、各章の扉に、社会や生活に関連する事象などを数学的にとらえる課題と、その課題を解決しようとする場面を取り上げました。(第1号、第2号、第3号)	p. 7, 49, 103
	・真理を求める態度を養うという観点から、各章の冒頭「ふり返し」に、その章を学習するために必要な既習の内容をまとめました。(第1号)	p. 6, 48, 102
	・目的意識を持って学習に臨めるよう、節の冒頭に、その節で学習する内容をイメージするための記述を取り上げました。(第2号)	p. 8, 35, 50 等
	・目的意識を持って学習に臨めるよう、例や例題についてはタイトルをつけるなど、提示の仕方を工夫しました。(第2号)	p. 9, 11, 12 等

巻頭	・我が国と郷土を愛し、他国を尊重するという観点から、前見返しにおいて、日本や他国の風景の写真を掲載し、それに関連する数学Bでの学習内容を記述しました。(第4号、第5号)	p. I, 1
	・真理を求める態度を養う、および、自主及び自律の精神を養うという観点から、巻頭には「本書の構成と使い方」を設け、自ら進んで学習する態度をはぐくめるようにしました。(第1号、第2号)	p. 4, 5
第1章 数列	・数列の導入として、お小遣いを一例として取り上げ、生活との関連を重視するとともに、数日後にいくらになるかを自ら考えるような表現とし、自主及び自律の精神を養うようにしました。(第1号、第2号)	p. 8
	・自然数の和、奇数の和を数列の観点から求める内容に、長方形や正方形の面積と関連した図を取り入れ、幅広い知識と教養を身につけられるようにしました。(第1号)	p. 15
	・職業および生活との関連を重視するという観点から、複利法について取り上げ、等比数列の和との関連と、その数式を視覚化して読み解けるようにしました。(第2号)	p. 20-21
第2章 統計的な推測	・生活との関連を重視するという観点から、スーパーマーケットに入荷した砂糖袋や、ある田の稲の穂の粒数などを具体例として取り上げました。(第2号)	p. 86, 88
	・男女の平等や自他の敬愛と協力を重んずるという観点から、1つの課題について同級生と協力する様子を章末問題で取り上げました。(第3号)	p. 101
第3章 数学と社会生活	・他国を尊重するという観点から、ルーローの三角形を利用した硬貨をコラムで、また、古代ローマで用いられたシーザー暗号を項の導入で取り上げました。(第5号)	p. 108, 118
巻末	・真理を求める態度を養う、および、自主及び自律の精神を養うという観点から、巻末には「数学Bでの学習事項」を設け、自ら進んで学習する態度をはぐくめるようにしました。(第1号、第2号)	p. 140-141
	・他国を尊重するという観点から、後見返しにおいて、各章に関連した数学者を、その年代を示した年表とともに紹介しました。(第5号)	p. 144, II

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

--

① 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
103-149	高等学校	数学	数学 B	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	数 B708	新編数学 B		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①構成

- (1) **新しい学習内容に入る前に、既習の内容をふり返ることができるようにしました。**
各章の冒頭に「ふり返し」のページをおき、既習である内容について言葉の意味や重要事項をふり返ることによって、新しい学習内容にスムーズに入っていくことができるようにしました。
- (2) **図式や色刷りを用いて、視覚を通して内容を直観的に理解できるようにしました。**
本文内容については解説の部分に図式や色刷りを効果的に用いて、視覚を通して直観的に内容を理解できるように構成しました。特に、本文内容と、それを補足するための傍注には本文と相互に同色の色アミを掛け、対応関係が明確になるように配慮しました。
また、カラーユニバーサルデザイン(CUD)の観点から、誰にでも見分けられる色使いを心がけ、フォントは識別がしやすい書体(UD 書体)を採用しました。
- (3) **例と問題の対応関係を明確にして、演習を通じて内容が定着するようにしました。**
例や例題に対応する問題は、対応関係が明確になるように配慮し、例や例題を参照しながら問題演習を行うことで、学習した内容を確実に理解・定着できるように構成しました。
節末の「確認問題」では、節での学習内容を確認できるようにし、章末の「章末 A 問題」で、各節の内容の延長にある標準的な問題に取り組むことで、総合的な応用力を養えるようにしました。また、「確認問題」「章末 A 問題」にはそれぞれふり返し先を明示し、解けなかった場合には戻って復習をすることができるようにしました。
- (4) **数学的な見方・考え方を用いて課題を解決したり、ひろげたりする力を身につけられるような問題を取り上げました。**
各章の扉では、身の回りの課題と、それを解決しようとする場面を取り上げることで、各章を学ぶ目的・意義を理解するとともに、数学的な見方・考え方をはぐくめられるように配慮しました。また、その課題が本文内の例、例題や、後述の「math 探」で解決できるようにしました。
本文内では、その章で学習した内容を、さらにひろげたり深めたりすることができるよう、特集ページ「math 探」を設けました。
章末では、身の回りにある課題や数学の課題から、新たな内容を発見し、それを使って課題を解決できるよう、「章末 B 問題」を設けました。
- (5) **学習の中で ICT を有効に活用できるようにしました。**
コンピュータを有効に活用することで学習内容の理解が深まる場面には、コンピュータ画面を示して解説するとともに、QR コードも有効な場面では掲載し、その様子をみることができるようになりました。さらに、QR コードは学習効果が図れる場面に適宜入れ、自分で動かしたり動画をみたりなどできるようにし、生徒の主体的な学習をサポートできるようにしました。

②内容

「数学Ⅰ」、「数学A」、「数学Ⅱ」からのつながりと「数学Ⅲ」への接続を考慮して、「数列」「統計的な推測」「数学と社会生活」の順に配列し、この3つの章で構成しました。各章において留意した点は次の通りです。

第1章 数列

章扉では、車のローンについての具体例を取り上げ、生徒の興味・関心の幅をひろげられるようにしました。また、その内容について、math探で等比数列の和との関連性とその数式の意味について視覚的に理解できるようにしました。

等差数列や等比数列の導入では、初項に一定の数を次々に加えたり掛けたりすることがイメージできるように、補足的な図式を取り上げました。

数学的帰納法では、命題の証明を具体例として最初に取り上げ、繰り返し成り立つことによってすべての自然数について成り立つという感覚をもちながら理解できるようにしました。

第2章 統計的な推測

章扉では、コインが細工されているのか否かを、生徒が実際に投げて実験したり、そこからどのように判断すれば良いのかを自ら考えたりする姿勢を取り上げました。また、その内容について、本文内の例で解決できるようにしました。

分布が視覚的にわかるように、本文やmath探で随時グラフを掲載したり、そのグラフに関する演習を取り上げたりしました。特に、正規分布や標本平均の分布について、二項分布 $B(n, p)$ の n の値や標本の大きさ n の値を大きくするほど、正規分布曲線に近づくことが理解できるようにしました。

また、平均や分散などを求める際の数式が煩雑になったり、数式とグラフの対応がわかりづらかったりする箇所では、色使いを効果的に使い、数式やグラフの意味が視覚でわかるようにしました。

第3章 数学と社会生活

各題材について、何をするのか、何が知りたいのかなどがわかるよう、導入などに「Question」をできるだけ入れ、自主的な探究活動にもつながるようにしました。

「大きな飼育場を作ろう」では、中学校や「数学Ⅰ」の内容で容易に考えられるような内容で構成し、数理モデルの意味理解が無理なくできるようにしました。

「巴戦」、「鳩の巣原理」では、図を用いて視覚的にも理解ができるようにしました。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第1章 数列	(1)	p. 6-47	24
第1節 等差数列・等比数列	(1) ア(ア)／イ(ア)(イ)	p. 8-22	9
第2節 いろいろな数列	(1) ア(イ)／イ(ア)	p. 23-34	7
第3節 漸化式と数学的帰納法	(1) ア(ウ)(エ)／イ(イ)(ウ)	p. 35-45	6
第2章 統計的な推測	(2)	p. 48-101	31
第1節 確率分布	(2) ア(イ)(ウ)／イ(ア)	p. 50-69	12
第2節 正規分布	(2) ア(ウ)／イ(ア)	p. 70-77	5
第3節 統計的な推測	(2) ア(ア)(エ)／イ(ア)(イ)	p. 78-99	12
第3章 数学と社会生活	(3)／内容の取り扱い(2)(3)	p. 102-129	12
		計	67

上記の配当時数について、標準単位数に対応する単位時間より少なく設定しております。それにより、上記時間以外に、調べ学習や話し合い学習など、学校の創意工夫による幅を持たせた授業を展開できるようにしています。

① 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
103-135	高等学校	数学	数学Ⅲ	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	数Ⅲ706	新編数学Ⅲ		

1. 編修の基本方針

- (1) 学習指導要領の目標の達成を期し、わかりやすい説明や例から始めて、基本的な内容を理解できるように編集しました。
- (2) 教師が、学習目標や指導内容を正しくとらえ、生徒の実態に応じて創意工夫をこらした指導ができるように配慮しました。
- (3) 生徒が、学習内容に興味・関心をもち、自発的・意欲的な学習活動ができるように配慮しました。



2. 対照表

教育基本法 第二条 教育の目標

教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
教科書全体	・生活の事象と数学との関連を理解し、未知の問題にも主体的・協同的に取り組む姿勢、真理を求める態度を身につけられるよう、各章の扉に、社会や生活に関連する事象などを数学的にとらえる課題と、その課題を解決しようとする場面を取り上げました。(第1号、第2号、第3号)	p. 7, 33, 67, 119
	・真理を求める態度を養うという観点から、各章の冒頭「ふり返し」に、その章を学習するために必要な既習の内容をまとめました。(第1号)	p. 6, 32, 66, 118
	・目的意識を持って学習に臨めるよう、節の冒頭に、その節で学習する内容をイメージするための記述を取り上げました。(第2号)	p. 8, 21, 34 等
	・目的意識を持って学習に臨めるよう、例や例題についてはタイトルをつけるなど、提示の仕方を工夫しました。(第2号)	p. 9, 11, 13 等

巻頭	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を大切にする，および，生活との関連を重視するという観点から，前見返しにおいて，身の回りで見たことがある植物や物体などの写真を取り上げ，それに関連する数学Ⅲの学習内容を記述しました。(第2号，第4号) 	p. I, 1
	<ul style="list-style-type: none"> ・真理を求める態度を養う，および，自主及び自律の精神を養うという観点から，巻頭には「本書の構成と使い方」を設け，自ら進んで学習する態度をはぐくめるようにしました。(第1号，第2号) 	p. 4, 5
第1章 数列の極限	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け，個人の能力を伸ばすという観点から，Columnとして「無限数列の収束と無限級数」を取り上げました。(第1号，第2号) 	p. 22
第2章 関数とその極限	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け，個人の能力を伸ばすという観点から，Columnとして「区間の表し方」を取り上げました。(第1号，第2号) 	p. 62
第3章 微分法	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付けるという観点から，「二項定理を使ったx^nの導関数」をColumnに取り上げました。(第1号) 	p. 71
	<ul style="list-style-type: none"> ・生活との関連を重視するという観点から，形や容積が決まっている容器の作り方について考える問題を取り上げました。(第2号) 	p. 108
第4章 積分法	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け，個人の能力を伸ばすという観点から，Columnとして「区分求積法の長方形の高さのとり方」を取り上げました。(第1号，第2号) 	p. 158
	<ul style="list-style-type: none"> ・男女の平等や自他の敬愛と協力を重んずるという観点から，1つの課題について2つの視点で解いている様子を章末問題で取り上げました。(第3号) 	p. 165
課題学習	<ul style="list-style-type: none"> ・数学を利用して身のまわりの問題を解決する場面を取り入れました。また，自ら課題を見つけ解決することを促す記述をおき，自他の敬愛と協力を重んずるという観点から，作業性のある課題をおきました。(第1号，第2号，第3号) 	p. 167-173
巻末	<ul style="list-style-type: none"> ・真理を求める態度を養う，および，自主及び自律の精神を養うという観点から，巻末には「数学Ⅲでの学習事項」を設け，自ら進んで学習する態度をはぐくめるようにしました。(第1号，第2号) 	p. 188, 189
	<ul style="list-style-type: none"> ・他国を尊重するという観点から，後見返しにおいて，各章に関連した数学者を，その年代を示した年表とともに紹介しました。(第5号) 	p. 192, II

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

--

① 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
103-135	高等学校	数学	数学Ⅲ	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	数Ⅲ706	新編数学Ⅲ		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①構成

(1) 新しい学習内容に入る前に、既習の内容をふり返ることができるようにしました。

各章の冒頭に「ふり返し」のページをおき、既習の内容の言葉の意味や重要事項をふり返ることによって、新しい学習内容にスムーズに入っていくことができるようにしました。

(2) 図式や色刷りを用いて、視覚を通して内容を直観的に理解できるようにしました。

本文内容については解説の部分に図式や色刷りを効果的に用いて、視覚を通して直観的に内容を理解できるように構成しました。特に、本文内容と、それを補足するための傍注には本文と相互に同色の色アミを掛け、対応関係が明確になるように配慮しました。

また、カラーユニバーサルデザイン(CUD)の観点から、誰にでも見分けられる色使いを心がけ、フォントは識別がしやすい書体(UD書体)を採用しました。

(3) 例と問題の対応関係を明確にして、演習を通じて内容が定着するようにしました。

例や例題に対応する問題は、対応関係が明確になるように配慮し、例や例題を参照しながら問題演習を行うことで、学習した内容を確実に理解・定着できるように構成しました。

節末の「確認問題」では、節での学習内容を確認できるようにし、章末の「章末A問題」で、各節の内容の延長にある標準的な問題に取り組むことで、総合的な応用力を養えるようにしました。また、「確認問題」「章末A問題」にはそれぞれふり返し先を明示し、解けなかった場合には戻って復習をすることができるようにしました。

(4) 数学的な見方・考え方を用いて課題を解決したり、ひろげたりする力を身につけられるような問題を取り上げました。

各章の扉では、身の回りの課題と、それを解決しようとする場面を取り上げることで、各章を学ぶ目的・意義を理解するとともに、数学的な見方・考え方はぐくめられるように配慮しました。また、その課題が本文内の例題や、後述の「math探」で解決できるようにしました。

本文内では、その章で学習した内容を、さらにひろげたり深めたりすることができるよう、特集ページ「math探」を設けました。

章末では、身の回りにある課題や数学の課題から、新たな内容を発見し、それを使って課題を解決できるよう、「章末B問題」を設けました。

(5) 学習の中でICTを有効に活用できるようにしました。

コンピュータを有効に活用することで学習内容の理解が深まる場面には、コンピュータ画面を示して解説するとともに、QRコードも有効な場面では掲載し、その様子を見ることができるようになりました。さらに、QRコードは学習効果が図れる場面に適宜入れ、自分で動かしたり動画をみたりなどできるようにし、生徒の主体的な学習をサポートできるようにしました。

②内容

「数学Ⅰ」，「数学A」，「数学Ⅱ」，「数学B」からのつながりを考慮して，「数列の極限」「関数とその極限」「微分法」「積分法」の順に配列し，この4つの章で構成しました。各章において留意した点は次の通りです。

第1章 数列の極限

章扉では，無限級数の問題を取り上げ，「数学B」の「数列」の延長としてどのようなことが予想できるかを生徒が考えている様子を取り上げました。また，その内容について，本文の例題で解決し，さらにmath探で図を用いて解決もできるようにしました。

無限数列と無限級数の導入では，場合分けや図，表などを用いて，より理解が深まるように丁寧に記述しました。

第2章 関数とその極限

章扉では，三角関数を含む分数の極限の問題を取り上げ，未知の問題について生徒が試行錯誤している様子を取り上げました。また，その内容について，本文や例で解決し，さらにmath探でグラフを用いて解決もできるようにしました。

分数関数のグラフでは，2次関数の平行移動と関連付けることで，定着しやすくなるようにしました。また，無理関数のグラフでは， $y = \sqrt{x}$ をもとにして，平行移動が理解しやすい色使いにしました。

第3章 微分法

章扉では，形や容積が決まっている円柱の容器の作り方について，生徒がその意味を理解し，さらに疑問が持てるようにしました。また，その内容について，本文内の例題で解決できるようにしました。

微分法と速度について，より理解を深められるように，容器に入れた水の高さの上昇速度について考えるmath探を取り上げました。

二項定理を用いた x^n の導関数をColumnに取り上げ，「数学Ⅱ」とのつながりを意識できるようにしました。

第4章 積分法

章扉では，角錐の体積の公式について疑問を持たせ，生徒が新たな導出方法を考えようとする様子を取り上げました。また，その内容について，math探で解決もできるようにしました。

体積では，本文で球，角錐，円錐の体積を扱っており，中学で学ぶ公式で解ける内容を使用することで，体積の内容がより理解できるようにしました。

課題学習

身近な題材を取り上げ，問題解決から自主的な探究活動につながるようにしました。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第1章 数列の極限	(1) ア(ア) (イ) / イ(ア) (ウ)	p. 6-31	14
第1節 無限数列	(1) ア(ア) / イ(ア) (ウ)	p. 8-20	7
第2節 無限級数	(1) ア(イ)	p. 21-29	5
第2章 関数とその極限	(1) ア(ウ) (エ) (オ) / イ(イ) (ウ)	p. 32-65	18
第1節 分数関数と無理関数	(1) ア(ウ) (エ) / イ(イ)	p. 34-45	7
第2節 関数の極限と連続性	(1) ア(オ) / イ(ウ)	p. 46-63	9
第3章 微分法	(2) / 内容の取り扱い(1)	p. 66-117	28
第1節 微分と導関数	(2) ア(ア) (イ)	p. 68-81	8
第2節 いろいろな関数の導関数	(2) ア(ウ) / イ(ア)	p. 82-90	5
第3節 導関数の応用	(2) ア(エ) / イ(イ)	p. 91-105	8
第4節 微分法の応用	(2) ア(エ) / イ(ウ) / 内容の取り扱い(1)	p. 106-115	5
第4章 積分法	(3) / 内容の取り扱い(2)	p. 118-166	25
第1節 不定積分	(3) ア(ア) (イ) / イ(ア) / 内容の取り扱い(2)	p. 120-133	8
第2節 定積分	(3) ア(ア) (イ) / イ(ア) / 内容の取り扱い(2)	p. 134-143	5
第3節 定積分の応用	(3) ア(ウ) / イ(イ) (ウ)	p. 144-163	10
課題学習	[課題学習] / 内容の取り扱い(3)	p. 167-173	3
		計	88

上記の配当時数について、標準単位数に対応する単位時間より少なく設定しております。
 それにより、上記時間以外に、調べ学習や話し合い学習など、学校の創意工夫による幅を持たせた授業を展開できるようにしています。

① 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
103-163	高等学校	数学	数学 C	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	数 C706	新編数学 C		

1. 編修の基本方針

- (1) 学習指導要領の目標の達成を期し、わかりやすい説明や例から始めて、基本的な内容を理解できるように編集しました。
- (2) 教師が、学習目標や指導内容を正しくとらえ、生徒の実態に応じて創意工夫をこらした指導ができるように配慮しました。
- (3) 生徒が、学習内容に興味・関心をもち、自発的・意欲的な学習活動ができるように配慮しました。



2. 対照表

教育基本法 第二条 教育の目標

教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
教科書全体	・生活の事象と数学との関連を理解し、未知の問題にも主体的・協同的に取り組む姿勢、真理を求める態度を身につけられるよう、各章の扉に、社会や生活に関連する事象などを数学的にとらえる課題と、その課題を解決しようとする場面を取り上げました。(第1号、第2号、第3号)	p. 7, 67, 95, 131
	・真理を求める態度を養うという観点から、各章の冒頭「ふり返り」に、その章を学習するために必要な既習の内容をまとめました。(第1号)	p. 6, 66, 94, 130
	・目的意識を持って学習に臨めるよう、節の冒頭に、その節で学習する内容をイメージするための記述を取り上げました。(第2号)	p. 8, 31, 44 等
	・目的意識を持って学習に臨めるよう、例や例題についてはタイトルをつけるなど、提示の仕方を工夫しました。(第2号)	p. 9, 10, 20 等

巻頭	・我が国と郷土を愛し，他国を尊重するという観点から，前見返しにおいて，日本や他国の風景の写真を掲載し，それに関連する数学Cでの学習内容を記述しました。(第5号)	p. I, 1
	・真理を求める態度を養う，および，自主及び自律の精神を養うという観点から，巻頭には「本書の構成と使い方」を設け，自ら進んで学習する態度をはぐくめるようにしました。(第1号，第2号)	p. 4, 5
第1章 ベクトル	・生活との関連を重視するという観点から，章の冒頭の導入文として，風速について取り上げました。	p. 8
	・幅広い知識と教養を身に付け，真理を求める態度を養うという観点から，図形の性質を，ベクトルを用いて調べる問題を取り上げました。(第1号)	p. 36
	・幅広い知識と教養を身に付けるという観点から，空間のベクトルの内容を，平面と同様に考えられるという表現を加えました。(第1号)	p. 48, 50, 51 等
第2章 複素数平面	・幅広い知識と教養を身に付け，個人の能力を伸ばすという観点から，研究として「アポロニウスの円」を取り上げました。(第1号，第2号)	p. 89
第3章 平面上の曲線	・2次曲線の焦点の性質がどのように我々の生活に役立っているかを取り上げることで，生活との関連を重視するとともに，主体的に社会の形成と発展に寄与する態度を養えるようにしました。(第2号，第3号)	p. 107
	・生活との関連を重視するという観点から，節の導入として自転車のタイヤの軌跡を取り上げました。(第2号)	p. 113
第4章 数学的な表現の工夫	・自然を大切にし，環境の保全に寄与するという観点から，那覇市の気象データを題材として取り上げました。(第4号)	p. 135
巻末	・真理を求める態度を養う，および，自主及び自律の精神を養うという観点から，巻末には「数学Cでの学習事項」を設け，自ら進んで学習する態度をはぐくめるようにしました。(第1号，第2号)	p. 165, 166
	・他国を尊重するという観点から，後見返しにおいて，各章に関連した数学者を，その年代を示した年表とともに紹介しました。(第5号)	p. 168, II
3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色		

① 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
103-163	高等学校	数学	数学 C	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	数 C706	新編数学 C		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①構成

- (1) **新しい学習内容に入る前に、既習の内容をふり返ることができるようにしました。**
各章の冒頭に「ふり返り」のページをおき、既習である内容について言葉の意味や重要事項をふり返ることによって、新しい学習内容にスムーズに入っていくことができるようにしました。
- (2) **図式や色刷りを用いて、視覚を通して内容を直観的に理解できるようにしました。**
本文内容については解説の部分に図式や色刷りを効果的に用いて、視覚を通して直観的に内容を理解できるように構成しました。特に、本文内容と、それを補足するための傍注には本文と相互に同色の色アミを掛け、対応関係が明確になるように配慮しました。
また、カラーユニバーサルデザイン(CUD)の観点から、誰にでも見分けられる色使いを心がけ、フォントは識別がしやすい書体(UD 書体)を採用しました。
- (3) **例と問題の対応関係を明確にして、演習を通じて内容が定着するようにしました。**
例や例題に対応する問題は、対応関係が明確になるように配慮し、例や例題を参照しながら問題演習を行うことで、学習した内容を確実に理解・定着できるように構成しました。
節末の「確認問題」では、節での学習内容を確認できるようにし、章末の「章末 A 問題」で、各節の内容の延長にある標準的な問題に取り組むことで、総合的な応用力を養えるようにしました。また、「確認問題」「章末 A 問題」にはそれぞれふり返り先を明示し、解けなかった場合には戻って復習をすることができるようにしました。
- (4) **数学的な見方・考え方を用いて課題を解決したり、ひろげたりする力を身につけられるような問題を取り上げました。**
各章の扉では、身の回りの課題と、それを解決しようとする場面を取り上げることで、各章を学ぶ目的・意義を理解するとともに、数学的な見方・考え方はぐくめられるように配慮しました。また、その課題が本文内の例題や、後述の「math 探」で解決できるようにしました。
本文内では、その章で学習した内容を、さらにひろげたり深めたりすることができるよう、特集ページ「math 探」を設けました。
章末では、身の回りにある課題や数学の課題から、新たな内容を発見し、それを使って課題を解決できるよう、「章末 B 問題」を設けました。
- (5) **学習の中で ICT を有効に活用できるようにしました。**
コンピュータを有効に活用することで学習内容の理解が深まる場面には、コンピュータ画面を示して解説するとともに、QR コードも有効な場面では掲載し、その様子をみることができるようになりました。さらに、QR コードは学習効果が図れる場面に適宜入れ、自分で動かしたり動画をみたりなどできるようにし、生徒の主体的な学習をサポートできるようにしました。

②内容

「数学Ⅰ」,「数学A」,「数学Ⅱ」からのつながりと「数学Ⅲ」への接続を考慮して,「ベクトル」「複素数平面」「平面上の曲線」「数学的な表現の工夫」の順に配列し,この4つの章で構成しました。各章において留意した点は次の通りです。

第1章 ベクトル

章扉では,飛行中のヘリコプターについて,2地点から見ていた場合,何が分かれば位置が特定できるのかを,生徒2人が考える様子を取り上げました。また,その内容について,例題とmath探の演習を通して解決できるようにしました。

内分点,外分点の位置ベクトルでは,分点の比率が理解しやすいように色付けをし,まとめの公式と例で取り上げた具体例が関連付けられるようにしました。

空間の座標では,座標平面に長方形が置かれたような図を用いて,各頂点の座標を意識することで,空間座標の理解ができるようにしました。

空間のベクトルの導入後は,ベクトル自体の考え方は「平面上のベクトル」と同様に考えればよいということを取り返し表現し,平面上のベクトルに関連させて考えることで理解しやすいようにしました。

第2章 複素数平面

章扉では,「数学Ⅱ」で学んだことをもとに,新しい疑問点を発見できるようにしました。また,その内容について,本文内の例題で解決できるようにしました。

複素数の和,差,積では,図形的な意味が分かるように,本文と図式の色使いを工夫しました。

平面図形と複素数では,内分点・外分点の説明を「数学Ⅱ」の記述や図式とあわせることで,より定着しやすくなるようにしました。

第3章 平面上の曲線

章扉では,第3章で扱う2次曲線を取り上げ,「数学Ⅰ」で学んだ放物線との共通点や差異を考える様子を取り上げました。また,その内容について,本文の例・例題やmath探などで解決できるようにしました。

放物線,楕円,双曲線の導入では,波面を用いた図を用いて説明し,より図形的に理解しやすい構成にしました。

また,放物線,楕円,双曲線の焦点の性質と,それらを用いたものをコラムで取り上げることで,2次曲線がどのように実生活に役立っているのか分かるようにしました。

第4章 数学的な表現の工夫

随所に,何をするのか,何が知りたいのかなどがわかるよう,導入などに「Question」をできるだけ入れ,自主的な探究活動にもつながるようにしました。

「統計グラフの利用①」では,小学校・中学校で触れたことのある統計グラフの活用方法や利点を,改めて考えられるようにしました。

「行列」では,行列の積の考えを用いて,飛行機の航路を考える内容や演習を取り上げました。また,それを発展させた内容をmath探で話題として取り上げました。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第1章 ベクトル	(1)	p. 6-65	32
第1節 平面上のベクトル	(1) ア(ア) (イ) / イ(ア)	p. 8-30	13
第2節 平面上のベクトルと図形	(1) ア(ア) / イ(イ) (ウ)	p. 31-43	7
第3節 空間におけるベクトル	(1) ア(イ) (ウ) / イ(イ) (ウ)	p. 44-63	10
第2章 複素数平面	(2) ア(エ) (オ) / イ(イ) (ウ)	p. 66-93	14
第1節 複素数平面	(2) ア(エ) (オ) / イ(イ)	p. 68-82	8
第2節 平面図形と複素数	(2) イ(イ) (ウ)	p. 83-90	4
第3章 平面上の曲線	(2) ア(ア) (イ) (ウ) / イ(ア) (ウ)	p. 94-129	20
第1節 2次曲線	(2) ア(ア) / イ(ア)	p. 96-112	10
第2節 媒介変数と極座標	(2) ア(イ) (ウ) / イ(ウ)	p. 113-125	8
第4章 数学的な表現の工夫	(3) / 内容の取り扱い(2)	p. 130-157	14
		計	80

上記の配当時数について、標準単位数に対応する単位時間より少なく設定しております。
 それにより、上記時間以外に、調べ学習や話し合い学習など、学校の創意工夫による幅を持たせた授業を展開できるようにしています。